

社会の持続可能な発展に貢献する製品・サービス

当社グループは製品・サービスを用途別に独自指標で評価し、環境貢献価値の高いものをBlue Value®製品、QOL向上貢献価値の高いものをRose Value™製品として認定しています。私たちの製品・サービスが社会にどう貢献できるのかを「見える化」し、その価値をステークホルダーの皆様と共有することで、社会課題解決に向けた取り組みを深め、社会の持続可能な発展に貢献していきたいと考えています。

Blue Value® 製品



CO₂を減らす 資源を守る
自動車バンパー・インパネ用材料
PPコンパウンド
塗装工程が不要で13.3%の温室効果ガスを削減。



CO₂を減らす 自然と共生する
排ガス低減剤
アドブルー®
NOx排出量を削減。省燃費にも貢献。
*アドブルー®はドイツ自動車工業会の登録商標です。

CO₂を減らす

燃料タンク用接着性樹脂
アドマー®
金属製タンクの樹脂化によってタンクを10~30%軽量化。



CO₂を減らす 資源を守る

食品包装用白色フィルム
エコネージュ®
空気層に光を乱反射させて白色性を発現。白色印刷が不要で、樹脂使用量も20~30%削減。



Rose Value™ 製品



医薬・医療の高度化
メガネレンズ用材料
MR™シリーズ・UV+420cut™
視力矯正に加えて、目の健康・快適さにも貢献。



食糧問題への対応
殺虫剤
トレボン®
農作物の安定生産、食糧増産に貢献。

食糧問題への対応

鮮度保持フィルム
スパッシュ®
青果物のしおれや変色を抑え、フードロスの低減に貢献。



少子高齢化への対応

衛生用不織布
シンテックス®
もれない・むれない・かぶれないという基本性能に加え、快適性・フィット性といった高機能を追求。



*ご紹介している製品および用途は一例です。



三井化学グループ CSRコミュニケーション

三井化学グループのCSR

三井化学グループは、ステークホルダーから信頼・評価され、従業員が誇りを持てる会社になるよう様々な取り組みを行うことはもちろん、本業を通じて企業グループ理念を具現化することを当社グループのCSRと考えています。

2016年に策定した2025長期経営計画では、社会からの要請や企業グループ理念を踏まえて目指す未来社会の姿を定めました。この実現に向けて、「経済」「環境」「社会」の3軸のバランスを重視した経営に取り組むことを改めて表明しました。環境・社会軸では事業を通じた社会貢献、社会に与える影響への十分な配慮という観点から3つの目標を設定しています。

当社グループは事業活動を通じて、社会と当社グループの持続可能な発展を目指します。

企業グループ理念

地球環境との調和の中で、材料・物質の革新と創出を通して高品質の製品とサービスを顧客に提供し、もって広く社会に貢献する

目指す未来社会の姿



2025長期経営目標（環境・社会軸）

- 低炭素・循環型・自然共生社会の実現に貢献できる製品・サービスの最大化
- QOL向上、スマート社会の実現に貢献できる製品・サービスの最大化
- サプライチェーン全体を通じた安全確保・高品質・公正の追求



〒105-7122
東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
コーポレートコミュニケーション部
TEL 03-6253-2383
FAX 03-6253-4245
<https://www.mitsuichem.com>

三井化学グループのCSR活動について
Webサイトで網羅的にご報告しています。
併せてご覧ください。

<https://www.mitsuichem.com/jp/csr>

2017年11月発行

変わる
三井化学グループの研究開発

「顧客起点 イノベーション」 で社会に貢献

三井化学グループは、社会の持続可能な発展を目指す2025長期経営計画の基本戦略のひとつに「イノベーションの追求」を掲げています。めまぐるしく変化する社会のニーズに対応していくためには、社会やお客様が何を求めているのかをきちんととらえることが必要不可欠です。お客様のニーズに対して、技術やサービスを組み合わせて新たな価値を提供すること、いわゆる「顧客起点イノベーション」を推進しています。当社グループの研究開発は大きく変わろうとしています。社内外の垣根を越えた連携によるオープンイノベーション活動を通じて、社会やお客様の課題解決を目指す取り組みをご紹介します。



Special
Topic

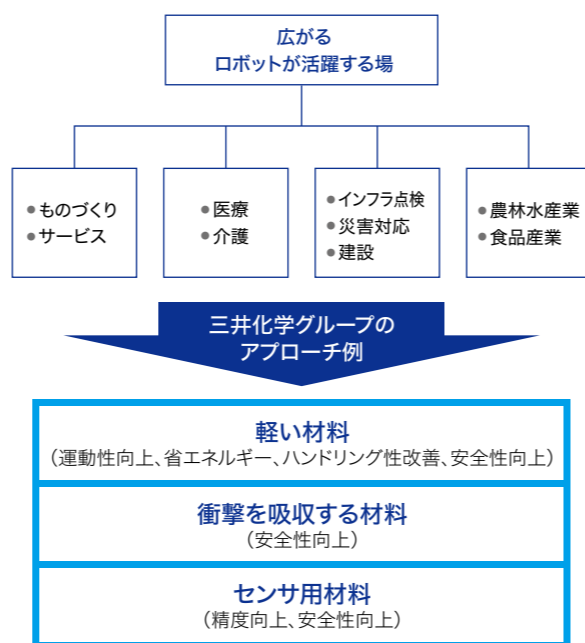
「わくわく」と「外へ」から始まった ロボット材料事業

2012年、モビリティ事業本部に「未来創生ワークショップ」が立ち上がりました。これは、社員が自由に新規事業を探索してほしいと会社の後押しで始まったものです。キーワードは「わくわく」と「外へ」。

わくわくするテーマには自然と人が集まります。会議室の外に飛び出せば、社員有志、当社の弱みを補完できる企業、新しいことに挑戦するお客様との共創が始まります。そこから当社グループのロボット材料事業が生まれました。

「様々な社会課題解決を期待されているロボットは、今後も“鉄の塊”なのだろうか?」「自動車のように機能性材料がどんどん使われるのでは?」という仮説を持って外に出ると、社内外で様々な化学反応が起きました。そのひとつが、人と協働するロボット向けの柔らかい部品の開発です。柔らかい素材を求めるロボットメーカーのニーズと当社の材料技術がうまく合致し、これまでにない特殊な部品をともに創り上げました。

2016年4月に正式発足したロボット材料事業開発室は、「ロボット」と「材料」というこれまであまり接点なかった技術の新結合と新しいヒトのネットワーク形成を重視し、イノベーション創出と顧客起点の新たな価値の創造をリードしています。



Voice
01

総合化学メーカーの強みを 発揮できる分野

当社グループには、既存事業で鍛えられたすぐれた技術や総合化学メーカーならではの多彩な製品群があります。それをロボットに適用し、新しい市場への出口を作る、というのが我々の基本的な考え方です。社外の技術も積極的に活用します。社内外の技術を柔軟に結合させることがイノベーションにつながると信じています。

ロボット材料事業を通じて、当社グループ内にインタラクティブな新しい関係が広がっていると感じます。例えば、自律移動ロボットの街中走行実験「つくばチャレンジ2016」では、圧電センサを組み込んだバンパーを参加チームに提供しました。「ロボットが壁や人に衝突したことを検知する」「ロボットも衝突相手も守る」等のニーズを受けて、別々の事業部が所管する圧電センサと柔らかなポリウレタンフォームを組み合わせ試作したバンパーです。専門家と意見交換を行いながら試作品の改良を進めています。

これからも、当社の技術を採用したロボットがどれだけ世の中の役に立つかを考えながら、ロボット材料事業開発を進めていきます。ロボットが社会貢献する上で当社の技術が少しでも役立てばうれしいです。



「つくばチャレンジ2016」で当社バンパーセンサを実装したロボットの様子



ロボット材料事業開発室
主席部員
緒續 士郎

Voice
02

ロボットメーカー、部品メーカーと 「わくわく感」を共有

ロボット材料事業開発では、当社の力だけでお客様や社会のニーズに100%応えることはできません。そこで、人と協働するロボットの部品開発でもパートナーになってくれる部品メーカーを探すことから始めました。ここは非常に苦労した部分です。当社の既存事業の多くは、部品メーカーがお客様です。これまで事業部や研究の先輩方が材料サプライヤーとして部品メーカーと良い関係を築いてきたことが大変助けになりました。

我々の材料が部品メーカーの加工でお客様の望む形になったり、必要なら他社の材料も使って部品メーカーで複合化したり。おもしろいことや新しいことをやりたいと言ってくれる部品メーカーと我々が、このような想いを通じてロボットメーカーと「わくわく感」を共有することで、新しい製品が生まれてくると実感しています。

これからの研究開発には、このようなオープンイノベーションが不可欠だと考えています。そこには、お客様や協力いただく方々との信頼関係の醸成が必要です。今後もお客様や社外の協力者の方々と一緒になって事業を生み出すという三井化学グループの新しい研究開発に取り組んでいきたいと考えています。



人と協働する
ロボットの一例



合成化学品研究所
リサーチフェロー
山崎 聡